

日向神話の本舞台

①

知保・智保郷紀行

日向市歴史観光ボランティアガイド「平兵衛さんの会」 杉山義則

日向市美々津に残る伝承によると、神武天皇は紀元前667年8月1日に美々津を出発して東征の旅に出られました。橿原宮で初代の天皇に即位した神武は、故郷の日向・知保・智保郷のことを大変心配され、一族のさまさまな方に命じて知保・智保郷の安寧を囑られました。日向市歴史観光ボランティアガイド「平兵衛さんの会」のメンバーは昨年9月25・26日、日向神話研究会の協力で知保・智保郷（高千穂町、高森町、阿蘇市、山都町、五ヶ瀬町）の神社を中心に巡り、その土地に伝わる伝承を含めて一族のその後を訪ねました。

伝承の地を巡る旅

高千穂、熊本、五ヶ瀬へ



杉山義則さん

9月25日午前7時30分、旅行会社の中型バスに乗参したのは、日向市歴史観光ボランティアガイド「平兵衛さんの会」のメンバー9人と、県北地域の神話や聖跡地を調査研究する日向神話研究会の杉本隆晴

左端が筆者



副会長（元延岡市副市長）、同会が2月に出版した「日向神話の本舞台」宮崎県北編」の柳田米敏編集長、同会顧問の谷平興（延岡市観光協会代表理事）の合わせ12人です。

延岡市北方町の道の駅

穂町岩戸の「八大龍王水神社（はちだいらいりゅうおんすいじんしゃ）」に向かいました。

創建は西暦8世紀以前で不詳。主祭神は難陀（なんだ、跋難陀（はつなんだ）、娑伽羅（しやがら）、和修吉（わしゅうきつ）、徳叉迦（とくしゃか）、阿那婆達多（あなはだつた）、摩那斯（まなし）、優鉢羅（うはつら）の八大龍王。観世音菩薩（くわんぜいおんぼさつ）の守り神とされ、水神様として崇拝されています。

本殿の様式は入母屋（いりもや）造り。昔から雨乞いの神様として祭られ、日本各地に八大龍王に関しての神社や祠（ほこら）があるそうです。

境内には榎（えのき）のご神木があり、枝が複雑に絡み合うさまは八大龍王の

「平兵衛さんの会」の副会長を務める杉山義則さん（74）日向市富高がまとめた紀行文を7回に分けて紹介します。

近年では勝負事や社会的成功を祈願する方も増えており、全国各地からスポーツ界で活躍する選手、監督（元読売巨人軍の川上哲治氏、藤田元司氏が寄贈した灯籠が駐車場に設置）や、会社経営者など勝利・成功を願う方々が数多く参拝祈願に訪れています。

境内には榎（えのき）のご神木があり、枝が複雑に絡み合うさまは八大龍王の

「平兵衛さんの会」の副会長を務める杉山義則さん（74）日向市富高がまとめた紀行文を7回に分けて紹介します。

境内には榎（えのき）のご神木があり、枝が複雑に絡み合うさまは八大龍王の

「平兵衛さんの会」の副会長を務める杉山義則さん（74）日向市富高がまとめた紀行文を7回に分けて紹介します。

境内には榎（えのき）のご神木があり、枝が複雑に絡み合うさまは八大龍王の

「平兵衛さんの会」の副会長を務める杉山義則さん（74）日向市富高がまとめた紀行文を7回に分けて紹介します。

境内には榎（えのき）のご神木があり、枝が複雑に絡み合うさまは八大龍王の

「平兵衛さんの会」の副会長を務める杉山義則さん（74）日向市富高がまとめた紀行文を7回に分けて紹介します。

境内に漂う神秘的雰囲気

高千穂町岩戸 八大龍王水神社

コロナにな！ コノハナロードに風車1400本

岡富中生が呼び掛け 19校で作る応援隊も協力

延岡



桜、菜の花に風車の青色が加わり、さらに華やかになった

延岡市野地町の五ヶ瀬川右岸堤防（愛称「コノハナロード」）に22日、市内の中学生が作った風車が飾られた。堤防に咲く桜、菜の花の黄色の菜の花に、新たに加わった風車の青色が訪れた人たちの心を癒している。風車は「コロナの早期収束」「コロナ差別的解消」「医療従事者への感謝の気持ち」「延岡市民の元気」の願いを込めて作られた。3月2日の午前中まで飾られる。



風車には「コロナ撲滅」「ありがとう」などメッセージが書かれている

車は「コロナの早期収束」「コロナ差別的解消」「医療従事者への感謝の気持ち」「延岡市民の元気」の願いを込めて作られた。3月2日の午前中まで飾られる。岡富中学校（粟田茂樹校長）生徒会が呼び掛けた「コロナに負けるな！笑顔を咲かせよう風車プロジェクト」で実施した。参加したのは、市内の公立中16校、県立しるやま支援学校、私立中2校の計19校。毎年、開催される延岡花物語のメインイベント「このはなウォーク」が今年は中止に。会場を飾る風車作りを担当してきた中学生が、「風車だけでも自分たちで作って飾り、少しでも元気を届けたい」と企画した。1月下旬に岡富中生徒



風車を取り付ける岡富中1年生（22日午後、延岡市野地町のコノハナロード）

会執行部が文書を通して呼び掛け、文書が届いた全ての学校が参加に同意。生徒会は2月上旬に同校ホームページで作り方の手順を説明。出来上がった各校からの風車の羽根が集まった。河津桜、菜の花などを整備、管理しているNPO法人コノハナロード延岡市民応援隊（松田庄司理事長）も相談を受け、「中学生のそうした思いは元気を頂けると協力。年明けから羽根を取り付ける軸の準備に入った。風車を回すねじも、これまで以上に回転しやすいようにと長いものに交換。20日には会員約20人が長いねじを取り付けた軸を同ロードの東側にありの入り口から約750mの範囲に設置した。22日には同校1年生（112人）が、堤防に差し込まれた軸のねじに、今度は風車の羽根を差し込み、ペットボトルキャップでしっかりと固定した。風で回らない風車は、キャップの締め方をやり直すなど丁寧に作業、1時間ほどで「医療従事者への感謝の気持ち」を表す青の風車約1400本がずらりと並んだ。

（13）は「私たちが作ったのではなく、みんなで作ったもの。作った人みんなの思いを考えて取り付けた。回ってうれしい」「長友海遥さん（13）は「医療従事者に思いが届けばと思いついて飾りました。しっかりと回ってほしいと修正したり、立て直したりしたのでたくさん風車が回るのを見てうれしかった」と話し、「見て楽しんでほしい」と望んだ。執行部として企画関わった3組の金丸月音さん（13）は「市内全中学校の協力でこんなに多くの数がそろい、自分たちのプロジェクトが形になってうれしい。桜、菜の花、そして風車を見て、元気や笑顔になってほしい。また、延岡の地域活性化につながれば」と声を弾ませた。「イベントが中止になる中で、子どもたちがやりたいと計画してくれたのがいいなと思った。私たちもぜひ協力して子どもたちの声を実現したい」と松田理事長は「コロナの早期収束や医療従事者への感謝の気持ちは見る人に伝わるし、元気や勇気をもつと思う。いい風景だし、気持ちがいい」と、活動する生徒たちを褒め、いままで見詰めていた。

2021. 2. 24